



## 子宮に発生する良性腫瘍しゅよう 子宮筋腫しきゅうせんしゅ

子宮筋腫は生殖年齢女性に発生する頻度の高い良性腫瘍です。主な症状は、月経量が多い、月経期間が長いなどの月経異常とそれに伴う貧血、強い月経痛、筋腫の増大による圧迫などで、不妊の原因にもなります。

子宮筋腫の治療法として主に手術療法と薬物療法が選択されます。

手術療法には子宮を全部摘出する子宮全摘術と子宮筋腫だけを摘出する子宮筋腫核手術があります。

赤ちゃんが欲しい場合は、子宮筋腫だけを摘出する子宮筋腫核手術を施行することになります。この場合は術後に妊娠したとしても分娩方式が帝王切開になることも少なくありません。また子宮内腔へ突出するタイプの子宮粘膜下筋腫に対しては子宮鏡という手術器具を使用して、腔内から手術を施行することが多いです。



最近は手術療法の進歩も目覚ましく、腹腔鏡下手術というお腹を切らずに済む手術方式が増加していますが、巨大子宮筋腫や筋腫の発生部位によっては現在でも開腹手術を選択するケースが多いのも事実です。

また、薬物投与により、子宮筋腫サイズの縮小を試みる治療もあります。

他にも子宮動脈塞栓療法やMRI集束超音波療法などの治療法があります。

現在のところ、子宮筋腫の発生を予防する有効な方策はないので適切な治療法を選択することが肝要です。